

男女平等推進  
from  
むさしの

# まなこ

それぞれのよらぶら



- 安心して居られる場所を作ること ..... P.2
- 「ひとりぼっちじゃないよ」誰でも気軽に立ち寄れる多世代交流の拠点 ..... P.4
- 中学生のための「放課後カフェ」をつくりたい ..... P.6
- 支えあう子育ての新しいカタチへ ..... P.7

# それぞれのよりどころ

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、私たちの生活は大きく変わり、安心して自分らしくいられる場の必要性はますます高まっています。人と人をつなぐ場づくりをこめたそれぞれの思いを伺いました。

## 安心して居られる場所を作るといふこと

居場所について、コミュニティワーカーとして多様な活動をされる西川正さんにインタビューをしました。意識していないとつながりが持てない現代の暮らし方によって、居場所を作るためのヒントも伺うことができました。

### にしかわ ただし 西川 正さん

学童支援員、障害者団体のスタッフなどを経て、2005年NPO法人ハンスオン埼玉を設立。行政、企業を巻き込んだ市民参加型のまちづくりを手掛ける。大妻女子大学等講師。著書に『あそびの生まれる場所「お客様」時代の公共マネジメント』（2017年）



8月後半に行なったオンラインでのインタビュー

### 居場所とは…いるだけでOKだよ

「西川さんの主な活動の1つ」おとさんの「ヤキモタイム」について教えてください

私たちのNPOから、埼玉県内の小学校や地域の団体などに「焚き火をしませんか」というDMを送り、手を挙げた団体に、生協から寄付していただいたお芋を提供しています。そして、みんなで芋を焼き、一緒に食べます。「普段は交流のないパパたちが一緒に焚き火を囲んでいい表情でした」「おいしい時間でした。来年もぜひ」と声があがりました」などの報告を毎年いただいています。

「居心地がいい、あたたかな時間になっていくのですね。どうしてこれが居場所になっていくのでしょうか」

「私たちはお芋を贈って応援はしますが、火を使う許可を得たり当日芋を焼いたりなど、準備や実施をするのは各地の主催者であるおとさんたち。皆さん、ああでもない、こうでもないという試行錯誤されています。だからこそ結果として仲間になっていく、地域の居場所ができていくのだと考えています。」

「居場所」とはなんでしょうか

「あえて言えば「いる」だけでOKだと感じられる場所ですかね。どういふふうにしていられるかはその人が決め

られ、とやかく言われない。これに対して、「する」ことがいつも評価されるような場所、何かができないと、何かをしないとそこに居ることが許されない場所では、人は評価を気にして、表現することを控えます。例えば、話し合いがシーンとしている場ってありますよね。居場所とは、言い換えると、仲間がいる場所、自分のことを待っていてくれる人がいる場所とも言えます。」

### 居場所を「作る」とは必要とされるその背景

「ヤキモタイムの活動など、そのような居場所や関係性づくりをなぜわざわざする必要があるのでしょう

その意味で、「遊ぶ」PLAY、「表現する」と、居場所は重なる部分があり、実は大人でも同じです。自分の反対の意見があっても、「あなたはそう思うんだね。私はこう思うよ」と対話できる安心感。言い換えれば、人との関係にゆるやかなあそびを持っていく状態。そのために、焚き火が楽しい、お芋がおいしいと一緒に遊ぶような時間が持てる活動を提案しています。

「ほかの居場所づくりの例も教えてください」

長野県千曲市の公民館で開かれている「音楽 cafe」には、めずらしく男性が集まるそうです。参加者が自分のおきの音楽を持ち寄り、前に出て「私の一曲」を紹介します。そして全員で耳を傾けます。音楽の好みはそれぞれでもそこに語られるエピソードに対しての好き嫌いはなく、「そんなことがあったんですね」と共感したりするもの。みるみる場が温まって、表情も緩んでいました。

\*p.11を参照

中学校の放課後カフェの取り組みは、地域の大人が聞き役という役割として入っています。私が見た学校では、先生も一緒にお茶を飲んだり、トラブルをしたりと楽しそうでした。生徒と「教える・教えられる」の関係性ではなく、人として出会うような場



小学校で今年1月に行われた「おとうさんのヤキモタイム」。この活動は2005年から始まり、15年にわたり続いている

「西川さんの活動は「あそび」がキーワードと伺いました」

遊ぶとは、結果が分からないことでもリスクを負ってでもやってみようと思うこと。先ほど「いる」と「する」の話をしました。やってみること（冒險）と安心は常にセットなんです。今評価されると思ったら萎縮します。今露呈している学校の問題は、学校が評価の場になっていて、安心できる居場所ではないことの表れです。

になったりして、それが教室にも良いかたちで還元されているのではないのでしょうか。

「新型コロナウイルス（以下、新型コロナウイルス）はどんな影響を与えましたか」

居場所やつながりを作るのに、集まって、食べながら分かち合うことが一番「簡単」な方法でしたが、新型コロナウイルスはそれを奪いました。自治会の集まりなどもなかなか再開ができず、特に、高齢者の運動不足、コミュニケーション不足は顕著ですね。

### 居場所は作らなくてはいけないものではない

「居場所が見つからないという方もいます」

このようなテーマで話すと、居場所は良いもの、持たなくてはいけないものと思われてしまうかもしれないのが難しいところです。「持っていない私はだめ」とかでなく、誰かがこの場所はいいか悪いとかを決めるのでもなく、自分はその場所をどう感じるか、自分が今どう感じているかを大事にしてほしいと思います。自分のことをそのままOKと思ってくれる人は必ずどこかにいると思います。よい出会いがありますように。

# 「ひとりぼっちじゃないよ」 誰でも気軽に立ち寄れる多世代交流の拠点

関前にあるコミュニティカフェ&スペース「クラフトハウスばく」運営者の小境さんに居場所に込めた思いや活動について、利用者の方に多世代交流の良さを伺いました。

「のど渴いたー」  
勢いよく入ってきた7歳のはるちゃん。この日は、「ばく」で開催されている、けいこ先生の工作教室の日。参加する井手さん親子は、はるちゃんが赤ちゃんのころから「ばく」の常連です。2時間ほどおしゃべりと工作を楽しんだあと、はるちゃん



工作教室の様子。けいこ先生は元小学校教諭。「教えているというよりは、この時間を私も楽しませてもらっています」（けいこ先生）

はお小遣いを手に、お菓子コーナーへ。これも楽しみのひとつです。  
「育休中、社会とのつながりが少なくなってきたな」と思っていました」と井手さん。そんなときまたまた見つけたのが「ばく」。今では、実家のような存在だと言います。  
「次女の妊娠中、つわりがひどくてごはんを作れなかったとき、夜ごはんとのおかずを用意してもらえ助かりました」

井手さんの子どもたちは、一番の常連さんで、「ばく」の支援者でもある80代の渡辺さんのことが大好き。よく抱っこしてもらっていたそうです。

他にも、「ばく」で野菜を販売するななまる商店さんに、コロナ禍での自粛中、小麦粉が買えなくて困っていると話したら「うちにあるから持ってくるよ」と用意してくれたことも。  
「困っていることがあれば、『ばく』に集まる人生の先輩たちが話を聞いて

利用者の声に耳を傾けながら、「居場所としてなができるのか」を小境さんは、日々考え続けています。

## 居場所に込めた「思い」

「ばく」の場所は、もともと兄弟そろって支援者でもある渡辺さんの弟が「手製本づくり講座」をするために借りていました。小境さんは、前職を辞めた日に、職場からたくさん荷物を持って現在の「ばく」の場所へと向かいました。そしてその日から、その場所が小境さんの居場所になったのです。

当時、「ばく」の場所に集まるのは、母子・父子のひとり親家庭や単身の若者、高齢者でした。小境さんも、下の子がまだ幼かったときに夫を亡くし、ひとり親家庭としての人生を歩んでいました。それぞれ家に帰って食べるくらいなら「みんなで食べよう」となり、現在も続く「みな食」が始まったのです。

その後、「クラフトハウスばく」を小境さんを含む3人で立ち上げます。しかし、年月と共に、立ち上げメンバーが辞めていき、運営は一人に。「ばく」が、私の居場所でした。だから、一人でもできることを続けたかった」と小境さん。  
他にも、今までの経験から始まった活動があります。

てくれ助かっています。悩んでいる方がいたら『ここは、ひとりぼっちじゃないよ』と言ってあげたい」（井手さん）

「ばく」では、講座の講師、販売するランチやお菓子の作り手などを地域の方が担っています。人と人との繋がりが広がっていき、誰かのやりたいことが「ばく」で形となって、新たな活動に。そうやって、多世代交流の場が作られていきました。

しかし、新型コロナの影響で利用者が減り、厳しい運営状況に。それでも小境さんは、地域の方のために「ばく」を開所し続けています。

## コロナ禍での居場所の役割とは

「常連の親子連れの方は、『ばく』に買い物に立ち寄った際、自粛中の大変さや不安などを話して気持ち晴れた様子でした。週1回ほどランチを食べにきてくれる高齢の男性は、『他はどこも開いていなくて行くこ

「当時息子の高校受験の際、ひとり親家庭で塾に行かせる余裕がありませんでした」（小境さん）

その経験から、「ばく」に集まる同じ境遇の子どもたちのために、小境さんの娘とそのパートナー、友人たちが講師役となり、「ひとり親家庭支援」の無料塾をスタートさせます。

今では「のぞみ塾」として、学習支援に加え、全ての家庭の子どもたちに向けて、社会で経験を積んだボランティアの大人から学べる場（寺子屋・英語教室・工作教室・キャリア教育・料理体験）も提供しています。料理人になりたい夢をもっていた、当時まだ高校生だったひとしくんに、「ばく」で提供するランチのシェフをお願いしたことも。

「いずれお店をやりたい人のために、月1回でも『お金をいただける料理を提供する』体験を積んでもらえれば」と小境さんは若手のキャリア支援にも意欲的です。

## 居心地のよい「場」に必要なこと

「ばく」には、さまざまな世代の方が入り込みます。お互いを傷つけ合わず誰もが居心地のよい「場」にするにはどうしたらいいのでしょうか。「私が大事だと思うことは、自分の枠を狭めないで、いろいろな生き方



こざかい のりこ  
小境範子さん

2008年に「クラフトハウスばく」を立ち上げる。「ばく」を運営するかたわら「らっこの会」「夫婦別姓選択制をすすめる会」の事務局も務める。読書や家事、家飲みなど「ひとり時間」で気分転換



「クラフトハウスばく」  
武蔵野市関前3-10-6  
TEL:0422-36-8311



ろがないから助かる」と緊急事態宣言中も欠かさず来てくれました。また、ランチのテイクアウトをする人も少し増えました」（小境さん）  
「コロナ禍でも『ばく』に行けば誰かと会って話せる」。小境さんは、利用者の方との会話からそう感じたようです。



紙芝居の読み聞かせをする常連の渡辺さん（2019年撮影）。元役者なので、演劇的で迫力があると好評

に興味を持ち、尊重すること。人を尊重する姿勢があれば、どこでも居心地のよい「場」になっていくと思う」（小境さん）

また、これからやりたいことについて「私自身『がんばれない』『みんな一緒がすごく苦手』なので、メジャーでなくてもポチポチでもいい生き方を探ってみたい」と小境さん。そのために、不登校、引きこもり、女性、社会的弱者などの生き方について学びたいと考えています。そして、「誰のためにも開かれた居場所」になることが設立当初から続く思いです。

「さまざまな生き方を『ばく』を通じて紹介し、頑張りすぎなくても生きていける空気感を作っていきたいですね」

取材 若林優希／取材 文 岩田桂西



緊急事態宣言前の「みな食」の様子(上)と手作りの料理(左)。「月に1回でも元気で一緒にごはんを食べられればOK」と小境さん

月1回の「みな食（ひとりよりみんなまで食べよう）」では、集まることが難しくなったため、みんなとオンラインで繋がりを、参加者の「今」を共有。オンライン開催について参加者の方は「たとえその場に行けなくても、『みな食』の気分を味わえたので、これはこれでいいと思う」と言います。

# 中学生のための「放課後カフェ」をつくりたい

「放課後カフェ」オープンに向けて活動している浅野さん・井口さん・村山さんに伺いました。

## なぜ「放課後カフェ」を？

**浅野** 私は大野田福祉の会子ども部会でも活動していて、乳幼児のいる家庭への支援を中心にしていました。けれども乳幼児向け施設が充実してきた今、もっと大きな子の居場所づくりを考えるようになりました。そんなときに西東京市の中学校で「放課後カフェ」を開催している方のお話を聞く機会があり、「これだ！」と思ったのです。



**村山** 小学生にはあそべえがあるように、中学生にも放課後の居場所を作りたいと私も思っていました。その仲間づくりのためにも、子どもが在籍していた四中でPTA役員を務めました。また地域にも浅野さんのように想いを同じにする方がいると知り、一緒に始めることにしました。



**井口** 私も昨年度まで四中でPTA役員を務めていたのですが、カフェの企画を聞いて関わるようになりました。学校で疲れたら帰る前にリセットできるよ

うな場所があるといいなど。それに自身が調理師なので、おいしいものや温かいものを口にできたらもっと笑顔になれるんじゃないかと思ったのです。

## 大切にしているのは「何もないスペース」

**村山** 私たちが目指しているのは「何もないところ」。禁止事項もプログラムもないフリースペースにしたいです。規律を大切にしたいとか、何かしあてたいと考える大人もいると思いますが、そうすると運営する大人の側の居場所になりがちだと思うのです。ですからメンバーとは常に「誰のためですか」「それは必要ですか」と目的を確認し、ブレないようにしています。カフェ実行委員には長年地域で活躍してきた先輩も他の中学の保護者もいます。代表を決めず有志の集まりとして活動しています。

**浅野** カフェで私は編み物でもしながら見守ろうかな。立派な大人でなくても社会生活を送っているよ、いろんな人がいるよ、ということを知ってほしいです。親でも先生でもない大人だ



「放課後カフェ」実行委員の皆さん

夏休みの自習スペース



からこそできる関わり方もあると思うのです。

**井口** 市内では初の試みになるという企画なので、各方面への説明や責任の所在、保険などいくつものハードルがあります。2020年3月にプレオープンの予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で延期しました。会議を重ねる中で、コロナ疲れをしている今だからこそ、居場所が必要なのではないかと、休み明けには学校に足が向かない子もいる、とにかくやってみようということになり、夏休み最後の2日間、四中そばの施設を借り、自習スペースを開きました。当日は質問に答えられるよう講師役の大人が待機しましたが、中学生は自由に過ごせたと思います。

## PTA活動から地域活動の担い手に

**浅野** 私がPTA役員を務めた20年くらい前は、役員のほとんどが専業主婦で、学校に毎日「出社」するような関わり方でしたが、今の皆さんはキャリアを生かしながらPTA活動もしている合理的。時間の使い方もとても上手だと思えます。四中地区には、社宅、団地、住宅街・商店街があり、社会の縮図のようになっています。転動も多くの動きがある中で、地域のみならず子育てをしようという文化や空気は残っているように思えます。

**井口** 子どもの保育園での係から、学童クラブ父母会、PTA活動と親同士のつながりが増えていきました。男性のPTA役員がぐっと増えている一方、コミュニティセンター・防災・福祉の会などでは、後継者を探す地域も少なくありません。子どもの卒業後も、親同士としてだけでなく地域住民同士として隣近所の知人と永く活動したいと思うようになりました。地域の先輩方も、母親はもろろん、父親たちを待たせてあげたいと思います。地域で先陣を切って一歩踏み出せば、世界が180度変わりますよ！

取材文：藤田和香子  
\*1 放課後カフェは生徒が放課後にホッとできるカフェのような空間をづくり、地域な大人が中心になって運営する取り組み  
\*2 あそべえ 地域子ども館あそべえ、放課後対策充実施設の二つとして市内小学校で実施。子どもたちの自由な遊びの場、安全な居場所として学校施設を開放している

# 支えあう子育てのための新しいカタチへ

コロナ禍でも親子のための居場所であり続けるために試行錯誤した子育て支援施設「すくすく泉」さんの取り組みを伺いました。

「すくすく泉」は、吉祥寺にある複合型の子育て支援施設で、地域の子育て経験者を中心に運営しています。つらい時は誰かに支えられ、余裕のある時は支える側に、親同士もそんな関係を築ける場を目指してきました。

3月、新型コロナウイルスの流行で子育てひろば事業が突然中止に。すぐに始めたのが、隣接する公園にバラバラに来ていた親子に向け、11時に門を開け、手遊びや読み聞かせをし、終わったら閉める「いずみのハト時計」です。やがてこれを目当てに親子が集まるようになり、ほんの10分ほどですが、復職や出産の不安など情報交換したり励ましあったりしました。4月の緊急事態宣言では



「いずみのハト時計」。この時間が親子の日常の助けになった



「境おやこひろば」とのコラボで実現したオンライン離乳食講座

職員の間でも在宅勤務になりました。自宅からでも何かできないかと、おやつ作りやストレッチ解消法などの動画を撮り、毎日ツイッターで発信。また他団体と一緒に、オンラインで手遊びや講座を届ける活動もしました。6月16日にひろばが再開すると、「ハト時計」に支えられた、「ツイッター」動画を毎日楽しみに見ていた」などの声が返ってきました。手探りの取り組みでしたが、日々大事にしてきたつながりを切らずに自粛期間を乗り越えたことに安堵しました。同時に、リアルに会えることの価値をかみしめています。久しぶりの再会に「歩けるようになったのね」と子どもの成長を喜びあったり、「もう限界でした」と苦労を話してくれたり。親が抱える孤立した子育ての不安やストレスだけでなく、人と関わりながら多くを吸収する時期に自粛を余儀なくされる子どもの育ちへの影響を考えると、利用規則が増えてでも再開は必要でした。

感染の不安はまだ消えませんが、オンラインなどを取り入れながら、この時代の支えあう子育てのカタチを、柔軟かつ迅速に考える必要性を感じています。「文」すくすく泉施設長 上田ジュンコ

## 講座レポート

### ●しっかり学んで家族で話そう 思春期のカラダとココロ \*オンライン講座

日時>令和2年8月22日(土)14:00~15:30  
講師>大田 静香さん(市助産師会会長、むさしのレディースクリニック助産師)

### ●悩む女性のためのサポート講座—DV被害、離婚について考える \*オンライン講座

日時>令和2年8月28日(金)、9月1日(火)10:00~11:30  
第1回 夫との関係がづらい これってDV?  
講師>吉祥 眞佐緒さん(一般社団法人エープラス代表理事・Partage 主催)  
第2回 離婚が頭をよぎったら  
講師>赤石 千衣子さん(NPOしんぐるまざあずふぉーらむ理事長)

### ●子育てママのための社会学&コーチング講座 \*オンライン講座

日時>令和2年9月29日(火)、10月5日(月)10:00~12:00  
第1回 子育てはママの仕事か!?—炎上CMに見る男女の描かれ方  
講師>瀬地山角さん(東京大学教授)  
第2回 子どもの自立を育むコミュニケーション(子育てコーチング)  
講師>菅原 裕子さん(NPO法人ハートフルコミュニケーション代表理事)

### ●女性弁護士による女性のための「離婚に関する法律知識」

日時>令和2年11月1日(日)14:00~16:00  
場所>市民会館 集会室  
講師>露木 肇子さん(多摩総合法律事務所弁護士)

そのほかにも、  
●女性のための離婚に関する無料法律相談会(子ども家庭支援センターと共催)  
●ハタラクカイギ2020 60歳からのワーク&ライフ充実術!(生活経済課・高齢者支援課・子ども政策課と共催【動画配信】)  
●デートDV講座—その恋本当に大丈夫?(成蹊大学と共催)などを開催しました。

# ヒューマンあい だより

## 相談窓口のご案内 相談無料 秘密厳守

### ◆女性総合相談

女性が暮らしの中で抱える様々な悩みについて、女性の専門相談員がお話を伺い、解決に向けて一緒に考えます。夫やパートナーとのこと、家族のこと、職場や学校でのことなど、どんな些細なことでもかまいません。誰かに話すことで、気持ちが楽になることもあります。お気軽にご相談ください。

【相談方法】 面接・電話による相談  
【相談時間】 1回50分/予約制

第1土曜日	①13:00~	②14:00~	③15:00~
第2金曜日	①18:00~	②19:00~	③20:00~
第4火曜日	①9:00~	②10:00~	③11:00~

### ◆女性法律相談

離婚・扶養(養育)・相続などの法的な対応や手続きについて、女性弁護士が相談に応じます。

【相談方法】 面接による相談 【相談時間】 1回30分/予約制

第1土曜日	①9:30~	②10:10~	③10:50~	④11:30~
-------	--------	---------	---------	---------

申込み方法 「ヒューマンあい」窓口または、電話にて予約を受け付けます。  
予約電話番号 0422-37-3410(木曜・年末年始を除く午前9時~午後10時)

### ◆むさしのにじいろ電話相談(性的指向・性自認に関する相談)

セクシュアリティ全般や性的指向・性自認に関する悩み・相談に専門相談員が応じます。ご本人のみならず、ご家族や支援者の方などからの相談にも応じます。一人で悩まず、まずご相談ください。

第2水曜日	17:30~20:30
-------	-------------

※予約不要 【相談時間】 1人30分から1時間  
【電話番号】 0422-38-5187

面談をご希望の方はこちらへ▶0422-37-3410

『まなこ』は文字通り「眼」。人やまちや文化や地球を、男女平等推進の視点＝「まなこ」で見ている！という思いで名付けられました。1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

### 令和2年度 『まなこ』サポーターを紹介！

#### ●秋山茉莉奈（吉祥寺北町）

女性だけが輝くことを求められる社会に平等は存在するのか？と悩んできました。男女平等とは何であるかを皆様と一緒に考えていきたいです。

#### ●麻生明子（吉祥寺東町）

雨が続いた7月、灼熱の8月、少しずつ空が高くなってきた9月。環境の変化を肌で感じつつ飲むビールはいつも美味しい四十路です。

#### ●岡田正樹（中町）

仕事一筋だった私は、退職後に主婦の知恵やネットワークに圧倒される毎日です。男女平等の生き方を学んでいきたいと思えます。

#### ●佐々木直美（桜堤）

専業主婦になって3年。子育てを通して知る社会や地域のあれこれ。少し立ち止まって、よく見て、考えていきたいと思えます。

#### ●篠原泰子（中町）

仕事と子育てに奮闘中です。一緒に学び、考え、「あらゆる人が心地よく住める社会」のために、少しでも貢献できればと思います。

#### ●鈴木千明（緑町）

今年度初めてサポーターに参加させていただきます。右も左もわかりませんが、楽しみながら活動できればと思います。

#### ●丹内まゆみ（桜堤）

元氣な秘訣は「つながり」です。みなさんお一人おひとりが誰かを元気にさせます。元氣の伝播をめざして活動していきたいです。

#### ●曲刈かほり（境）

女性だから、男性だから、と諦めてしまいうことのない男女平等推進の視点。私なりに考えていきたいと思っています。



### 『まなこ』サポーターの200字コラム

#### 「公」を頼る意識を 秋山茉莉奈 ●吉祥寺北町

「まずは福祉や公共を頼る」今夏に放送されたテレビドラマでのセリフだ。夜を明かす居場所をSNSで探す家出少女へ向けられた言葉だが、私はコロナ禍の社会へ向けられたものだと感じ、「自助努力でコロナを乗り越える」ことが最適解とされた社会は正直に言って怖い。職場、住居、家族などコロナでほころびが生じた居場所で各個人が奮闘するなんて酷過ぎないか。まずは「公」がほころびを纏う。社会の大原則を私たちは今一度考えるべきだ。

#### 変わった人、変わらなかつた人 佐々木直美 ●桜堤

夫は在宅勤務になった当初はリビングで仕事をしていた。しかし、子どもがたえず邪魔をするし、電話や会議が始まると家族の苛立ちが募る。話し合いの結果、狭い寝室に移ることにした。以前は仕事でほとんど家にいなかったのに、気がつけば5日も外に出ていなかったりする。なんだか居心地が良さそう。翻って私はどうか？居場所に変化はない。夫の昼ご飯が面倒だと愚痴りながら料理の手抜きがうまくなったな、と思っている。

#### 自分自身であるために 曲刈かほり ●境

このコロナ禍で、自粛や思うように生活できない日々が続いています。外に出られなくて残念ではなく、家の中で楽しいと思える居場所作りが必要に感じます。趣味に没頭するもよし、友人と連絡を取り合うもよし、自分のペースで楽しめる何かを見つける。そんな時間を過ごせるのも、こんな状況ならではかもしれません。自分が輝いていられる居場所を大事にしたいと思っています。

### BOOKS

男女平等推進センターの蔵書から 貸し出しています！

#### 『おうち性教育はじめます一番やさしい！ 防犯・SEX・命の伝え方』 フクチマミ・村瀬幸浩 著 (KADOKAWA)

諸外国に比べ遅れている学校の性教育を待たず頼らず、親として子どもに教えていくべきとしている。幼児期からの声かけや接し方が数多く、マンガで読みやすい。  
性教育とは「いのち・からだ・健康」の学問であり、学ぶことで性的トラブルを避けられ、自分の性や体に対して肯定的に捉えられることで生きる自信を得られる。強さと優しさを持つ「自己肯定感の高い人間」に育つとある。それはなぜかと読み深めたいくなる1冊である。 [文 島崎理恵]



#### ●フェイスブックで情報発信しています

男女平等推進センター「ヒューマンあい」の取り組みを、フェイスブックで情報発信しています。右のQRコードからアクセスしてみてください。



### 武蔵野市立男女平等推進センター 「ヒューマンあい」ご利用案内

開館時間：午前9時～午後10時（木曜・年末年始 休館）  
〒180-0022 武蔵野市境2-3-7 市民会館1階  
電話：0422-37-3410 FAX：0422-38-6239  
Eメール：danjo@city.musashino.lg.jp

### \* STAFF \*

サポーター	秋山茉莉奈	麻生明子	岡田正樹	佐々木直美	篠原泰子
	鈴木千明	丹内まゆみ	曲刈かほり		
取材・編集	岩田桂菜	小西美穂子	島崎理恵	藤田和香子	
	若林優香	武蔵野市男女平等推進センター担当職員			
編集協力	栗原毅				
表紙デザイン	ふじわりりわ				
レイアウト	上田ジュンコ				
印刷	PICOプリンティングイン株式会社				

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、駅、医療機関、理美容院、大型店舗、金融機関、おふろやさんなど市内の約490か所に置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、男女平等推進センター「ヒューマンあい」まで。  
\*配布は、公益社団法人武蔵野市シルバー人材センターのご協力を頂いております

市ホームページでもバックナンバー  
をご覧いただけます。 [武蔵野市 まなこ](#) 🔍 検索

### Editors' Notes 編集 \* 後記

「はく」の小境さんから感じたのは、人を思いやる温かさ。つらい気持ちにも、そっと寄り添ってくれると思っ。  
「あそび」という言葉の持つ奥深さ、使われ方の妙に感嘆。西川さんのフェイスブックによる取り組みもゆるくてまさに遊んでいるかのよう。ご覧いただきませう。  
コロナ禍でも企画し、知恵を出し合い準備をして待っている人たちがいる。足を運び、出会い、交流を求めるのは勇気が必要だが、恐れてばかりでなく、そろそろ一歩踏み出そう。編集しながらそう思えた。  
カフエ実行委員会の会議は、誰もが発言しやすい和やかな雰囲気。さまざまな立場のメンバーが一つの目的に向かつて情熱を持って取り組んでいることが伝わってきた。  
人とのつながりが希薄になりがちな現代社会。コロナ禍になり、さらにひきこもりがちだったことに気づく。どこかに自分の居場所があることを信じてゆつくり見つけたい。  
(島崎理恵)  
(藤田和香子)  
(小西美穂子)  
(岩田桂菜)



◎綴じ込み返信はがきで、ご意見や感想をお寄せください。次号は、令和3年3月発行予定です。

生き方・いろいろ・ゆたかな人生～男女平等推進fromむさしの『まなこ』第109号  
企画・発行：武蔵野市 市民部 市民活動推進課 男女平等推進センター 〒180-0022 東京都武蔵野市境2-3-7 TEL: 0422-37-3410(ダイヤル・イン)